

## 地域生活支援学専攻・博士前期課程

### 教育理念・目標

地域生活支援学専攻博士前期課程では、複雑な現代社会における人々の社会生活上の困難や問題の解決・緩和・抑止・予防をはかる生活支援の基盤を支える社会福祉学の原理や仕組み、政策と実践等に関する体系的な知識、関連する隣接領域の知識の習得を通じて、多角的な視点から生活支援とは何かを追及する。特に人が地域で暮らすとはどのようなことか、地域生活支援として他者の生活や人生に関与することの意味を深く考え、生活支援科学の研究能力を培うことを通じて、地域生活支援学に関する高度な専門的知識と技能を備えた高度専門職業人を育成することを教育理念・目標として定める。

### 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

地域生活支援学に関する高度な知識や技能と多角的な視点から地域の生活支援を実践できる能力を身につけ、必修科目 10 単位以上、選択単位 20 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、修士論文の審査及び試験に合格した者について、生活支援科学修士の学位を授与する。

### 【教育課程編成・運営方針（カリキュラム・ポリシー）】

#### 教育課程編成の方針

本専攻教育課程では、複雑な現代社会での人の生活支援の基盤を支える社会福祉学の原理や仕組みを多角的な視点から学び地域生活支援に関する専門的知識・技能および研究能力を修得できるように適切に科目を配置する。

1. 地域生活支援科学の研究手法、隣接領域等に関する科目から地域生活支援学の基礎が学べるよう配置する。
2. 地域生活支援を多角的に分析・検討・考察できるように設定し、豊かで実践的な視点を養い生活支援専門職の実践力を高めるよう工夫する。
3. 研究指導により修士論文を作成し、地域生活支援学の研究能力を培うように設定する。

#### 教育課程運営の方針

本専攻では、4つの領域(1)共通分野（必修）1科目、(2)基礎分野 14科目、(3)展開分野 10科目、(4)研究演習 1科目として配慮された合計 26科目のなかから、合計 30単位を最低限履修することを要件としている。履修においては、地域生活支援の実践に必要な知識・技能および研究能力等が、カリキュラム体系の中でどのように養成されているのか履修モデル等で明示している。

### 【入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）】

#### 入学者受け入れの基本方針

本専攻は、専門分野の学理を探究したいと希望する者とともに、多角的な視点から実践研究を行うことを希望する者にも門戸を開いている。本専攻は入学者選抜にあたって、以下の要件を満たすものを積極的に受け入れたい。

1. 人々が営む生活や、その人々が生活する地域や社会に強い関心を持ち、社会福祉や健康スポーツに関する学問的基礎知識のある者。
2. 社会福祉についての、高度な専門的知識と理論・技能を修得して、研究活動や実践活動を通して社会に貢献したいと考えている者。